



The effect of an education program on Japanese nurses' attitudes toward foreign patients

Takashima, Airi

(Degree)

博士 (保健学)

(Date of Degree)

2017-09-06

(Date of Publication)

2018-09-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

乙第3332号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D2003332>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



(別紙様式5)

学位論文の内容要旨

氏 名 高嶋 愛里

論文題目 (外国語の場合は、その和訳を併記すること。)

The effect of an education program on Japanese nurses' attitudes toward foreign patients

(外国人患者対応講座受講による現任看護師の意識の変化)

(別紙様式5)

I. 背景

外国人が日本の医療機関を受診する際には言葉、文化・風習や医療制度の違いなどに課題があり、医療者も外国人患者対応に不安や戸惑いを持っていると報告がある。しかし、医療者に対して外国人患者対応のためのアクティブラーニングスタイルの現地臨床教育の機会はほとんどなく、医療者が現場で個々に対応しているのが現状である。

II. 目的

本研究では、現任看護師の外国人患者対応能力の向上の為に、我々が開発したアクティブラーニング形式の外国人患者対応講座を実施し、講座受講前後に質問紙調査を行い、講座受講による外国人患者に対する意識変化の比較を行うことにより、その有効性を検証した。

III. 方法

1. 教育プログラム(講座)の作成

先行研究から看護師の抱える不安や課題を基に看護師が外国人患者対応時に必要とされる項目より講座を立案、実施した。講座(1回90分)は、2回(2回/1か月間)とフォローアップ講座(講座終了3ヶ月後)の計3回実施した。講座内容は、1回目は「外国人患者の受け入れ準備」として、外国人患者の背景と受診時の問題点を知る内容、2回目は「看護実践」として、やさしい日本語の話し方や、外国人に問診票をとるなどを実践した。フォローアップ講座は「看護実践の評価」として、外国人患者対応の経験共有や外国人と外国人患者対応について外国人ゲストとともに意見交換などを行った。

2. 講座・質問紙調査の実施 (自記式質問紙調査法)

講座は大阪府の2か所の総合病院で2011年11月～2013年3月に実施した。対象者は、看護師177名(講座参加者:39, コントロール群:138)であり、参加者群には講座前後とフォローアップ後、コントロール群には講座前とフォローアップ後に質問紙調査を行った。質問項目は属性、先行研究を参考に研究者らが作成した看護師の外国人に対する意識と行動に対する質問と16質問項目の一般性セルフ・エフィカシー(自己効力感)尺度(General Self-Efficacy Scale 坂野・東條, 1986)を使用した。

3. 分析方法

分析方法は統計分析ソフトSPSS (version14.0) Windowsを使用した。

4. 倫理的配慮

質問紙は、無記名とし、本研究に同意しない場合であっても不利益を受けないこと、本調査への参加は自発的意思で行われること、質問紙調査票の回答をもって同意を得られたものとした。

IV. 結果

過去1年間の外国人患者対応経験があると回答した者は、参加者群82.1% (n=32/39) コントロール群77.7% (n=107/136)であった。

(別紙様式5)

看護師の意識についての質問項目では、コミュニケーションに関する質問である「外国人患者の会話理解度」(P=0.008)と「外国人患者への伝達度」(P=0.0032)の項目において講座前後とフォローアップ後の参加者群とコントロール群比較で参加者群において理解度と伝達度の数値が高くなっており、有意差があった。外国人患者に対する不安に関する質問項目での講座前フォローアップ後の参加者群とコントロール群比較では、「外国人患者の受け入れ準備体制」(P=0.0003)と「外国人患者との会話」(P=0.0003)において不安数値が低くなっており、有意差があった。外国人患者に対する看護師の行動実行度の程度を参加者群とコントロール群で講座前フォローアップ後に比較した。講座参加者群で「検査時はどんな検査か、検査が必要な理由を説明している」(P=0.0002)「患者の習慣、宗教、文化的背景に配慮して援助している」(P=0.005)「患者の理解を得られるように創意工夫をしている」(P=0.0008)「患者の不安を把握して援助している」(P=0.0002)の項目において行動実行度の数値が高くなっており、有意差があった。外国人患者に対する自己効力感に関する質問項目では、参加者群とコントロール群の講座前とフォローアップ後の比較では有意差はなかったが、参加者群とコントロール群のフォローアップ後の四段階分類の比較では参加者群において「とても高い」の数値が増加しており、有意差があった。

V. 考察・結語

講座受講により看護師の外国人患者とのコミュニケーションの自信、外国人患者対応への不安の軽減、外国人患者に対する看護実践度が向上した。やさしい日本語(外国人が理解しやすい・配慮された日本語)の話し方や外国人への問診聴取などの経験を持つことにより外国人患者への対応への自信が向上し、アクティブラーニング形式での講座は有効であるといえる。今後、外国人の定住化・オリンピック開催に伴う、外国人患者増加への対応として本教育プログラムが外国人患者受け入れ整備の一助となれば幸いである。

(別紙1)

論文審査の結果の要旨

氏名	高嶋 愛里		
論文題目	The effect of an education program on Japanese nurses' attitudes toward foreign patients (外国人患者対応講座受講による現任看護師の意識の変化)		
審査委員	区分	職名	氏名
	主査	教授	松尾 博哉
	副査	教授	中澤 港
	副査		印
副査			印
要 旨			
本研究では、現任看護師の外国人患者対応能力向上を目的に、アクティブラーニング形式の外国人患者対応講座を実施し、講座受講が看護師の外国人患者対応意識に及ぼす影響を検証した。看護師の抱える不安や課題を基に看護師が外国人患者対応時に必要と考えられる項目より教育プログラムを構築した。その内容は「外国人患者の受け入れ(外国人患者の背景と受診時の問題点)」「看護実践(模擬外国人患者の問診)」「看護実践の評価(外国人患者対応の経験共有)」である。コミュニケーションでは「会話理解度」と「伝達度」において講座前と講座後ならびにフォローアップ後において講座受講群とコントロール群の間に有意差がみられた。不安では、「受け入れ準備」と「会話」において、行動実行度では、「検査の説明」、「習慣、宗教、文化的背景に配慮」「理解」「不安把握」において講座前とフォローアップ後において、それぞれ有意差がみられた。講座受講により看護師の外国人患者とのコミュニケーションに対する自信、外国人患者対応への不安軽減、外国人患者への看護実践度が向上した。本研究は自ら開発した教育プログラムが看護師の外国人患者対応への自信を高めることを示した価値ある集積であると認める。よって、学位申請者の高嶋愛里は博士(保健学)の学位を得る資格があると認める。			
・発表論文 Airi Takashima, Hiroya Matsuo. The Effect of an Education Program on Japanese Nurses' Attitudes toward Foreign Patients. Universal Journal of Public Health, 5:54-61, 2017			